

木村泰司の西洋美術史

～ルーヴル美術館の至宝～

講師 西洋美術史家 木村 泰司



©高木昭仁

中世のパリを守る要塞から新たな王宮へ、そしてフランス革命後は華麗なる美の神殿として再生されたルーヴル。

フランスが誇る世界三大美術館となったルーヴルは、国有化された王家の美術コレクションを中心にして、その美術館としての歴史の幕が開きました。

この講座では、中世から近代に至るまでの史跡としてのルーヴルの歴史を辿ります。そして、美術史の流れと共に、西洋美術の発展に軌跡を残した至宝の数々を解説いたします。(講師・記)

1月27日	イタリア絵画
2月24日	フランス絵画
3月24日	北方絵画

<講師紹介>木村 泰司 (きむら たいじ)

1966年生まれ。米国カリフォルニア大学バークレー校で美術史学士号を修めた後、ロンドンサザビーズの美術教養講座にてWORKS OF ART 修了。ロンドンでは、歴史的なアート、インテリア、食器等本物に触れながら学ぶ。知識だけでなく、エスプリを大切に、全国各地での講演会、セミナー、イベントは新しい美術史界のエンターテイナーとして評判をよんでいる。著書に『名画の言い分』(集英社)、『印象派という革命』(集英社)、『おしゃべりな名画』(KKベストセラーズ)、『名画は嘘をつく』(ビジュアルだいわ文庫)、『知識ゼロからの肖像画入門』(幻冬舎)ほか、エッセーの執筆などで活躍中。

■日 時 2018年1/27、2/24、3/24 土曜日 15:30~17:00

■受講料(税込み) 会員 9,072円 一般 11,016円

(入会金は5,400円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です。)

※講師の病気、受講者が一定数に達しない場合、やむを得ず講座を延期または中止することがあります。
※お申し込みの際にご記入いただく個人情報、受講連絡をはじめ当社からの各種お知らせ、講座企画の内部資料として使わせていただきます。



朝日カルチャーセンター | 立
朝日JTB・交流文化塾 | 川

これからの予定

2018年4月期

「永遠のヴェルサイユ ～宮廷生活と芸術文化～」

4月	ルイ 14 世時代とフランス古典主義
5月	ルイ 15 世時代とロココの世界
6月	ルイ 16 世時代と新古典主義

2018年7月期

「木村泰司の西洋美術史 ～エルミタージュ美術館～」

7月	ルネサンス～バロック絵画
8月	バロック～ロココ絵画
9月	クロザ・コレクションと 19 世紀絵画

2018年10月期

「木村泰司の西洋美術史 ～マンハッタンの至宝たち～」

10月	ザ・クロイスターズとフリック・コレクション
11月	メトロポリタン美術館(前編)
12月	メトロポリタン美術館(後編)